

LALUZ

2004年9月15日(水)第21号(う・れ・す=光)

N関労 西日本NTT関連労働組合

発行責任者 島本 保徳

連絡先：神戸市中央区海岸通11 NTT神戸中央ビル内

Tel. 090-1070-6839 (横林賢二)

Eメール: simatch@taupe.plala.or.jp

拡がる企業年金改悪反対のたたかい

不同意の声を会社に突きつけよう!!

企業年金の改悪をめざす会社は9月から、三者協議会による、受給権者(退職・再雇用者を含む)の同意徴収を始めますが、これに対し、全国各地で反対の闘いが拡がっています。

西日本においては、大阪・堂島テレパークを皮切りに各地で「反対する会」のビラ配布が始まっています。

門前ビラ配布以外にも、職場やOB宅への個別訪問によるビラ手渡し、話しかけが西日本各地で始まっています。

「確定給付企業年金施行規則」では受給権者の3分の2(9万人といわれています)の同意が必要だけに、会社側はOB組織の協力を得るなど、さまざまな手を使って同意を得ようと画策していますが、企業年金の受給者情報を他団体へ流すのは「情報漏えいではないか」という声も上がっています。

当労組は、生涯賃金の切り下げである今回の企業年金改悪に断固反対し、受給権者等の仲間が作っている「反対する会」の仲間とともに闘っています。



大阪・堂島テレパークにて



新神戸ビルにて

不当な退職強要にNo!を

今年50歳を迎えた仲間にとっては重大な時期がやってきました。就業規則にも「NTTの定年は60歳」決められているにもかかわらずNTT労使によって「NTTに残るか、退職して子会社へ行くか」と迫られる「雇用形態選択」がやってきます。

Tel. 090-1070-6839

Email: simatch@taupe.plala.or.jp

昨年の例では「東北・盛岡への配転もありうる」と脅かした悪質な退職強要がありました。当労組では、このような強要を許さない闘いを進めるために、相談窓口を開設しています。遠慮なく電話・メールをお願いします。

NTTグループの職場に 労働組合の再生を!!

当労組、第3回定期大会ひらく

当西日本NTT関連労働組合は9月11日、神戸市内にて第3回定期大会を開催し、この間の60%の組織拡大を確認するとともに、職場に労働組合を再生するたたくい、成果主義賃金とのたたくい等をはじめとする運動方針を決め、下記の新役員を決定しました。

執行委員長	島本 保徳
副執行委員長	加納 功
書記長	横林 賢二
書記次長	兼廣 英治
執行委員	山下 悟
執行委員	吉川 雅雄
執行委員	那須 弘美
特別執行委員	佐野 修吉
会計監査	池田 和則

なお当大会には、新社会党兵庫県本部委員長原和美さん、熟年者ユニオン米岡委員長、N関労東から平井執行委員・千葉支部山地執行委員が連帯にかけつけていただき、熱いメッセージを頂戴しました。

熟年者ユニオンの米岡委員長のメッセージは別記のとおり。



大会に結集した代議員たち

時代の申し子、N関労に期待

熟年者ユニオン 米岡史之

敢えて、少数派労働運動という、苦難の道を選ばれた皆さんに心から敬意を表します。

私は、1994年に三菱工業神戸造船所を定年退職しましたが、当時はまだ「企業一家意識の醸成」「企業内福利厚生重視」「労使協調・成果配分」という企業の労務政策が続けられていました。

ところが、1995年日経連は経済のグローバル化による大競争時代に対応するために「新時代の日本的経営」を発表し、正規労働者を低賃金、不安定雇用の非正規労働者に置き換えることによって、総労務費を現在の二分の一〜三分の一に切り下げる戦略を内外に明らかにしました。

しかし、これを実現するには正規労働者を大幅に減らさなければなりません、急激に減らすのは抵抗が大きく困難です。

そこで2000年、日経連は労働者の賃金を3割カットする方針を明らかにしています。以前は経済成長のおこぼれによって「労使協調・成果配分」が曲がりなりにも実現していましたが、今では労使協調の結果は賃金切り下げであり、泥舟への追放となって労働者にはね返っています。

私たちは在職中「反合理化・職場抵抗」を訴えてきましたが「労使協調・成果配分」という会社と組合の宣伝が曲がりなりにも実現し浸透していたために説得力を持たず、少数派のままで定年を迎えました。しかし今では「反合理化・職場抵抗」の訴えが共感を持って受け止められるようになってきました。

「NTT企業年金改悪に反対する兵庫の会」のピラ配布に私も参加してきましたが、ほとんどの労働者がピラを受け取ってくれて気持ちよくピラ配りができました。ここにも「反合理化・職場抵抗」に対する労働者の共感が表れていると思います。

こうした歴史的転換期に、11万人合理化に抵抗することによって生まれたN関労は、今後の労働運動を象徴する存在ではないかと思っています。

今は少数であっても「反合理化・職場抵抗」を闘うことによって大きく育て、労働運動再生の一翼を担う勢力になって欲しいと期待しています。